

福賀ニュース

福岡貿易会情報誌



6月7日～10日の日程で、当会副会長であり、三井物産嶋津九州支社長のご紹介・ご案内の元、中国・山東省の南山集団への視察を中心とした15名の視察団を派遣した。

南山集団は山東省龍口市に拠点を構える、アルミ・金属工業を主軸とし、繊維、ワイン、その他にも教育や不動産、金融等多岐に渡る産業を抱える複合企業グループである。従来村落であった広大な敷地を、無数の生産工場や観光施設、従業員用の住宅施設などとして開発している。また大半の村民をこの南山集団内で雇用し「村企合一」の民間企業として飛躍的に成長している。中国企業ランキング500強にも取り上げられ、素材産業をはじめ、成長する中国の中でも注目される超巨大企業である。

南山集団の拠点である竜口は青島空港から高速に乗って3時間。福岡-青島は直行便があるが16時着の為、竜口へは移動で1日かかる。ということで移動日翌日から本格的な視察。

ジオラマで見ると分かるが南山集団の竜口拠点はメインの南山工業区、海側の東海区、自社の港のある西側の港地区、そして現在埋め立て中の西海岸地区に分かれ、総面積は130～150平方キロメートルほどはあるだろうか。エリアの中には生産拠点だけではなく、従業員用の住宅や学校、煙台南山学院という教育施設が置かれ、従業員は南山集団で働きながら子どもも含めて一生をこのエリアで過ごすことができるインフラを整えている。また敷地内になん



と！279ホールゴルフコース（最後の9ホールは（笑）？）と丘の上の荘厳な大仏を中心に広大な観光周遊エリアも整備されている。

西海岸の現在埋め立て中のエリアは、今後エタンガスを利用した化学プラントや関連製品向けの工場などの建設が予定されている。今年初めに中国政府がアメリカトランプ大統領へ提案した22兆円規模の輸入拡大案の内、実は本エリアへのエタンガスの輸入が最大規模のプロジェクトだそうである。アメリカは現在シェールオイルによる石油増産が続き、その副産物であるエタンガスは加工されエチレンなどとして利用される。今は一面更地であるが、近い将来このエリアに石油化学プラントが立ち並ぶこととなりそうだ。

工場内はやはり撮影禁止とのことでお見せできないのは残念だが、主力分野であるアルミ製品の製造現場を視察。中国高速鉄道やボーイング航空機の外装からアルミ缶や薬の外装用の部材まで手掛けるこの工場では、まず規模がすごい。工程毎に1棟ずつ巨大工場が、敷地内に永遠と並んでいる。金属加工ということで、工員を総動員した現場を想像していたが、従業員が少ない！巨大なNC加工機のようなものが並び、清潔な工場内は合理化され、必要最低限の人員で生産が行われている。





繊維(スーツ)工場も視察。こちらは打って変わった、広い工場内にミシンやプレスなどの従業員がひしめきあい、目のあたりの高さに製造途中のスーツが大量にひっかけてある。日本の青山商事へスーツを供給しているそうだ。その他にも自社ブランドでの生産も行っており、イタリアにデザインセンター、オーストラリアには自社の牧場を持っており、原料供給も含めた一貫した生産を行っている。

夜の宴席では南山集団殿からは董事の呂氏はじめ、幹部の方々に出席頂き、大いに歓待を受けた。団側からのおみやげの贈呈や、やはりお決まりの白酒での乾杯(文字通り乾杯)でフラフラになりながらも、友好や両者の今後を祝う楽しい宴席となった。



翌日は朝から地下醸造庫一面に醸造樽が広がるワイナリーを視察。中国では実はワインも多く生産されている。その歴史は古く、西部で葡萄酒として古くから生産されている他、近代のいわゆるワインについていえば山東省は中国ワインの一大産地である。煙台ワインは有名だが、南山集団でも「南山床園」(Nanshan Manor)というブランドでワインを生産している。世界的に消費量が下がる一方、中国でのワイン消費量は急拡大中。いずれ世界一の消費国になると予想される中、中国国内の生産量も急激に増えている。



今回竜口の他青島へも立ち寄った。福岡から見ると、青島は直行便も飛んでおり、山東省の窓口とも言える。古い歴史を持ち、見るべき箇所の多い青島であるが、生憎視察日程と、中国が旗を振る上海協力機構の首脳会議と日程が見事に重なり、市街地は厳戒態勢。まず青島に入るまでに数か所検問が置かれ、有名な「青島ビール工場」等、各施設も軒並み閉鎖。加盟国8か国のトップが宿泊しているであろう海側エリアからは完全にシャットアウトされた。こういった際には事前交渉無しで徹底的に規制がかけられるのも中国ならではの、出歩く市民も逆にこの非日常的な状況を楽しんでいるようであった。この会議に合わせて?海岸沿いではチャン・イーモウのプロデュースによる光と花火のセレモニーが行われた模様。知らずに出歩いた我々は、その観客とルート規制に流され、分けわからないままホテルに戻ってしまった。



青島市内は厳戒態勢であるがサミット仕様ということもあり恐らくいつもより?華やかにネオンが煌めいている。

今回南山集団という、特色ある企業を中心に視察し、非常に興味深く見せて頂いた。南山殿のエリアの中は、企業城下町がより緊密になり、ある種ユートピアのような、不思議な感覚であった。それでいて、生産の現場は合理化されており、これはこの中国だからこそ成せる一種の産業形態ではないだろうか。このやり方をそのまま日本企業で真似るのは聊か困難であり、またナンセンスかもしれない。だからこそ、日本企業がこの南山グループのリソースを生かし協力できれば、可能性は大いに広がるだろうと考えている。



福岡・大連未来委員会 経済視察団



土屋会長と
譚成旭大連市長

当会も会員となっている福岡大連未来委員会が今年で創立25周年を迎え、それを記念する大連経済視察団が派遣された。今回当会から小林副会長、龍造寺副会長、そして事務局から押野が本視察団に参加したので、その模様を報告する。

福岡から大連まで2時間程。中国国際航空と東方航空の2社が毎日直行便(経由便)を飛ばしている。大連は中国で初めての「経済技術開発区」が設置された都市であり、数多くの日系企業が今なお拠点を置いている。大連未来委員会は、既に当時北九州市が大連市と姉妹都市締結を行っていた為、行政とは別の民間・市民レベルでの交流促進を目的に、1993年に設立された。

到着日の夜には在瀋陽日本総領事館の大木領事によるブリーフィングで最新大連情勢を掴み、翌日からは金普新区や自由貿易試験区という大連市の政策の最前線の場を視察した。金普新区は大連中心地の北西に位置し、経済技術開発区を含む広範なエリアであり、工業を中心とした大連の成長のエンジンといっても過言ではない。日系企業も数多くこのエリアへ進出している。営業・商務に係るワンストップ機能も充実しているとのことで、特に目を引いたのはそういった申請が微信(WeChat)ベースで行われているということである。大連に関わらず中国全土で、個人情報などをSNSに紐づけて管理している中国では、そのインフラを行政が利用しない手は無い。また自由貿易試験区内にある越境EC試験区も視察した。入居している企業は商品を展示しているが、あくまで展示のみである。保税展示場のようなもので、購入希望者は希望商品をECサイトで注文すると商品が通関し、自宅等へ配送される。その際には関税ではなく、より安い「郵税」で済むというのが一つの特徴である。また入居企業からすると、海外製品を保税状態で商品を中国内に在庫し、迅速に配送できるというのもメリットの一つであろう。こういった試験区は中国内にいくつか設置され、海外から直接のEMS配送に加えて、中国での越境EC展開の選択肢の一つとなっている。

また団の一部は大連市人民政府を訪問し、譚成旭市長はじめ政府幹部へ表敬を行っている。訪問では福

岡大連未来委員会の25年の歩みを振り返り、福岡と大連の今後の友好を確認した。またその場にて、委員長としてこれまでの両地域の人的、文化的、そして経済的交流を支えてきた功績を称え、また福岡大連未来委員会の25周年を記念して、土屋委員長が日本人として74人目の「大連市荣誉公民」の称号を授与された。

同日開催された25周年を記念する大連市人民政府との懇談会では、李永金大連側初代委員長や懐忠民大連市人民対外友好協会会長も出席し、ともにこれまでの貢献を称え合うとともに、今後お互いに交流を拡大・更に深化していくことを確かめ合い、その後の交流会では大連側から大いに歓迎をいただいた。

また今回の日程中に開催された「日本商品展示会」を視察した。本展示会へは、未来委員会からも工業系中心に6社が出展した他、加工食品や日用品、工芸品等、あらゆる日本製品が展示され、販売もできる為、特に美容・コスメ品などは多数の一般客が殺到し、展示即売会の状態であった。日本商品がいまだに人気が高いことを実感するとともに、こんなに殺到すると最終日を待たず商品が無くなるのではないかと心配したが、即売会と割り切って大量の商品を揃えているようで、商魂たくましさに改めて感心することとなった。展示会の行われた星海広場周辺は、海を臨むその眺望の良さから、高級マンション等、大規模開発されており、市中心部とはまた違った雰囲気である。この開発を行ったのは大連を本拠地とし、米国の映画会社への出資で有名となった万达(ワンダ)グループだそうである。

この展示会参加者向けのレセプションも開かれ200名以上が参加した他、大連市政府幹部・関係者も多数参加しており、本展示会への大連の注目度合がわかる。レセプションでは和太鼓の演奏等の日本文化実演や、最後には福岡大連未来委員会橋田副委員長の見事な締めにより、大変な盛会となった。

今回の視察団へ参加し、大連市とカウンターパートとして交流を続ける、福岡大連未来委員会の果たしてきた役割の大きさを改めて感じることもあったとともに、福岡にとっては地理的にも環境的にも条件の整う大連に、今後更に目を向けていく必要があると感じている。



「福岡のかき氷店」 海外展開の取組紹介

(福貿グローバル塾講座活用事例)

台湾九州製冰股份有限公司
董事 經理人 石割 憲一
(九州製氷株式会社)



「おいしい氷屋 台北中山店」外観

2016年4月、唐人町にオープンした弊社運営のかき氷専門店「おいしい氷屋」。2017年11月に天神南店をオープンし、今年5月11日には海外1号店となる「おいしい氷屋 台北中山店」を開店しました。

厳正な温度、衛生管理のもと、かき氷に最も適した食感になるよう作り上げた弊社のブランド水「博多純水」(海外ブランドは「九州純氷」)を台湾へ輸出し、八女抹茶や黒ゴマなどから作る自家製ソースをかけたかき氷を提供しています。

開店から4ヵ月で20,000人を超える方々にお越しいただきました。メインのお客様は地元の台湾の方々ですが、現地在住の日本人の方、また欧米やアジア各国からの観光客の方にもお越しいただいております。

弊社が台湾への進出を決めた大きなきっかけとして福岡貿易会での「福貿グローバル塾」があります。



人気商品「抹茶マスカルポーネ」と「黒ゴマ杏仁豆腐」

2016年に開催されたこの勉強会に参加し、そこで「おいしい氷屋の海外進出」をグループワーキングのテーマにしていただきました。海外で事業展開をされたご経験をお持ちの講師の方々や国際事業を実際に担当されている参加メンバーの方々から貴重なアドバイスをいただき、またシンガポールへの市場視察への福岡貿易会による支援は、進出先選定において、大変有意義なものとなり、福岡貿易会並びに講師、参加メンバーの方々には深く感謝申し上げます。

今後は、福岡と台湾で店舗運営を行っている利点を生かした集客活動や台湾産の食材も取り入れたメニュー開発に取り組んでいきたいと思っています。



会員情報BOX

2018年4月に、当会前会長であり、現相談役の並田正一様が、西研グラフィックス株式会社代表取締役会長に就任されました。また、新しく代表取締役社長には並田正太様が就任され、7月13日に行われた会長社長就任披露パーティーには業界各関係者や行政関係者の他、福岡貿易会からも甲斐専務理事が出席し、盛大に開催されました。



2018年11月、東京・丸ビルでは、歌手の松任谷由実さんとコラボレーションしたクリスマスツリー「Knit Tree with Yuming」が登場しました。このツリー、実は当会会員の(株)福岡ニット様が製作されたものです。雪の結晶やトナカイなどの柄を幾何学模様と組み合わせた8mにも及ぶツリーは、服飾の世界を飛び越えチャレンジされた作品です。12月25日まで幻想的なライティングショーが行われますので、東京方面に行かれる方はぜひ足を運んでみてください。



福岡貿易会60周年記念寄稿 一2

【上海から福岡を見た】

元福岡貿易会上海事務所
所長 奥田 聖

今回のテーマは「上海」である。上海は、中国の都市の中でも特に知名度の高い都市だ。行ったことがある、住んだことがあるという人は福岡にもたくさんいるだろう。たとえ行ったことがなくても、名前を聞いたことがないという人はほぼいないはずだ。もちろん、それは世界的に見ても同じである。中国の都市別GDPで第一位を誇る上海市のプレゼンスの高さは首都・北京と同様にグローバル級である。実は、そんな上海は、長崎と関係が深い。今回は上海がかつてたどった歴史を振り返りながら、福岡にとっての上海との関係について考えてみたい。

1. 上海で感じた違和感

私は、福岡貿易会の上海事務所代表として、2014年4月～2017年3月まで上海に駐在した。2014年当時というと、日中関係は冷え切っており、「日本人が中国に行って大丈夫なのか」と真顔で心配される雰囲気だった。万が一に備えて、日本人として主張すべき意見をまとめ、いつでも中国語で取り出せるような準備だけはしておいた。とは言え、本音では心配には及ばないだろうと思っていた。

上海では、日本に住んだことがあるという上海人が次々と現れた。日本語を巧みに操る人は、その倍以上はいた。感覚的に、かなり多くの方が日本への渡航経験があった。例えば本人に渡航経験がなくても、日本旅行から帰ってきたばかりの親族・友人が必ず一人はいた。そんな上海人に囲まれて、日本人駐在員の中には「上海に住んで5年間になるけど、中国語は全く喋れないよ」と悪びれずに話す人もいた。

「なんだ、ここは？」と思った。10年前に広州に暮らしていた時には、日本語を話せる中国人を探すのは一苦労だった。当時も反日デモが広州で起こったが、その割に広東人は政治の話に興味を持っていなかった。仮に反日的な人に出会っても、概念的で抽象的な日本のイメージで文句を言ってくる人が多かった。しかし、上海は違っていた。「それはこういうことでしょうか？ただ、そんな事を我々が話しても無駄だから前向きに未来の話をお願いしますよ」と日本語でスマートな回答が返ってくるのである。本当に不思議な街だと感じた。

これを見て「上海は親日的な街だ」と言う人もいる。確かに親日的な上海人はいる。数も多い。間違いではない。上海には、多くの日本人が住むエリアがある。そこでは日本語を話す中国人によって日本人向けのサービスが提供されている。しかし、韓国人が多く住むエリアもあり、そこでは韓国語があふれ、韓国料理店がひしめいている。西洋人が夜な夜な騒ぐバーが並んでいるエリアもある。共通言語は当然英語だ。いや、探せばフランス語が飛び交うフランス人だらけの店や、ロシア人、イタリア人だら



上海旧城跡

けの店もあるだろう。上海という街の本質は、実はここにある。これが上海に興味を持ち始めたきっかけだった。

2. 上海の誕生

上海には、もともと「上海县城」と呼ばれる城壁に囲まれた小さな街があった。現在、多くの観光客が訪れる「豫園」周辺である。観光で豫園に立ち寄ることがあったら、少し豫園を離れて周囲を散策してみたい。豫園周辺には細い路地が張り巡らされ、明らかに他の地域とは異なる雰囲気を感じさせている。その辺りこそ、本物の「上海」だ。

アヘン戦争で勝利したイギリスは、1842年に締結した南京条約の中で、香港の割譲と広州、福州、厦門、寧波、上海の開港を求めた。実は、広州、福州、厦門、寧波というのは歴史的な貿易拠点である。広州では、アヘンの密貿易が横行し、アヘンを焼却されたことからアヘン戦争が引き起っている。こうした貿易拠点を開放して貿易の権益を手中に治めることは、即効性があり理に適っている。しかし、イギリス人がすごい点は、ここに香港と上海を加えたことである。香港と上海は歴史の表舞台に引き出されることになる。今から175年前の出来事だ。その際、香港は「割譲」され、上海は「租界」とされた。それは二つの都市のその後の命運を大きく変える。

「割譲」というのは、文字通り、切り離されて譲られることである。割譲されイギリスの領土になれば、現地の統治が必要になる。統治をするために総督が送られ、行政機関が置かれた。法律やルールはイギリスの必要な形に改められ、エリア内に住む住民の国籍も変わった。もはや違う国になってしまった香港に対して中国が関与できる権限は何もない。それに対して「租界」は、いわば外国人居留地である。中国人居留地とは別に居留地を確保してイギリス商人の安全を確保する必要があったのだ。

それ故「租界」では、領土の主権はあくまで中国にある。外国人居住者は、通常通り地権者と賃貸借契約を結び地代を払う必要があった。ただ、彼らには、治外法権と、自身で治安を維持する警察権が与えられた。自治の行政制度は住民自身によって整備された。喫緊の課題として貿易をするためのふ頭・道路・橋などの公共施設の整備が必要となり1846年に「道路埠頭委員会」が組織された。この委員会は1854年には解散し、選挙で選ばれた租界の有力者や商人の7名からなる「参事会」に生まれ変わる。外国人が土地を自由に売買するようになったため、土地税・家屋税などの徴税権も持つようになり、これを財源とした。参事会の下には、財政、工務、警務などの専門の委員会が置かれそれぞれの業務を所管し、この行政組織を「工部局」と呼んだ。

この工部局が面白いのは、外国人住民による自治から発展した点にある。上海にもイギリスから領事が送り込まれたが、香港のように統治する役目ではなく、自国民を保護するための役割に過ぎなかった。1848年にはアメリカもアメリカ租界を設置している。しかし、その当時居留者も少なかったアメリカ租界では自分たちの手で治安を維持するのが困難であったため、1863年にイギリス租界と合併して「共同租界」となった。これにより、租界の自治組織はイギリス本国との関係すら相対化され、更に自治の色を強めることになる。参事会のメンバーはイギリス人が優位ではあったが、次第に各国の代表が含まれるようになった。このようにして上海の租界は、中国にあって中国ではなく、外国人が統治しているのに特定の国の統治は受けないという、非常に特殊なエリアとなった。その特殊性は、この後、世界中の多くの人々を引き付けた。世界中が動乱に巻き込まれる時代に至り、上海が「魔都」呼ばれ、世界中の謀略が渦巻く舞台となっていく所以である。上海の成り立ちを考える上で、個人的には最も興味深く、最も魅力を感じる部分である。

なお、フランスも1849年にイギリス租界に隣接する形でフランス租界を設置した。しかし、フランスは、イギリスと敵対していたため「共同租界」には合流せず、独自の行政組織を築いた。したがって、租界が消滅するまで上海には「共同租界」と「フランス租界」が並立していた。貿易で遅れをとったフランス租界では、カトリックの布教に力を入れることになり、教会や病院、学校が建てられた。住環境にも配慮されていたため、フランス租界は、閑静な住宅街として人気を博した。それらは「老房子（ラオフアンズ）」と呼ばれ、今でも上海で大切にされている。

3. 上海と日本人

さて、改めて、アメリカ租界が設置された1848年という年を考えてみたい。この年、アメリカはメキシコとの戦争に勝利し、アメリカ大陸の西海岸・カリフォルニアを獲得している。次は当然、太平洋横断航路と上海租界を通じた中国との貿易が視界に入っていたはずである。5年後の1853年にペリーが浦賀に現れる。ペリーはバージニア州ノーフォークを出て、大西洋を横断し、アフリカ大陸をまわり、インド洋、マラッカ海峡を越え、香港に寄って上海に至った。そして、その後琉球を経て、浦賀にやってきたのだ。長い航海でペリーも太平洋横断航路の重要性を嘯みしめていたはずである。ところが、アメリカは日本を開国するのに成功したが、1860年～1865年まで続く南北戦争でアジアにおける影響力を落としてしまう。初めての太平洋横断定期航路が開設されたのは、南北戦争が終結した後の1867年、大政奉還が行われた年になる。

1862年に幕府は官船・千歳丸を上海に送り込み、商取引の実態を学ぶという名目で上海視察をさせている。長州藩士・高杉晋作や薩摩藩士・五代友厚はこの船に乗っていた。高杉晋作は、外滩付近を中心に約2カ月滞在し、アヘン戦争を契機に植民地化されていく清の現状をつぶさに見て回った。坂本龍馬が寺田屋事件で使用したピストルは、この時購入して贈ったものである。高杉晋作は、中国人が貧しく外国人に使われている様子に強烈な危機感を覚えた。そして、日本を上海の二の舞にし

てはならないという想いを強くする。その想いは、やがて彼自身だけでなく、その後の日本の針路にも大きく影響を与えていくのである。

ところで、この時、千歳丸が出航したのは、博多ではなく、長崎であった。日本の歴史の幕が開く頃から日中間の橋渡しをしてきた博多は、この時、国際貿易の主役の座を長崎に譲り渡していた。長崎が開港された直後の1859年、早速イギリスの汽船会社P&Oが来航し、長崎－上海間に定期航路を開いた。安政の大獄が起こった年の出来事だ。この船は、長崎で貿易を行う外国人が利用していた。グラバー園で有名なイギリス商人トーマス・グラバーはその第1便で長崎にやってきた。

そして、明治元年にあたる1868年、長崎の田代源平が上海のイギリス領事館の裏に「田代屋」を開いた。

これが、上海で最初の日本商店と言われている。田代源平は上海の西洋人相手に有田焼を販売し、これが好評を博した。その後も、多くの長崎人が上海に渡り、商売を始めた。1875年には岩崎弥太郎の三菱汽船が、イギリスやアメリカの船会社を相手に、横浜・神戸・長崎-上海航路で勝負を仕掛け、価格競争の果てに勝利し、同航路を独占するに至る。更に1923年になると、日本郵船が「日華連絡船」として高速船「長崎丸」と「上海丸」を投入する。この船は、上海と長崎の間を、わずか26時間で結ぶという極めて画期的な航路だった。当時は、関門海峡を船で渡っていた時代である。長崎の人々にとっては、東京よりも、上海のほうがよっぽど身近だった。当時、上海に行くのにはパスポートすら必要なかったそうで、長崎では、「下駄を履いて上海へ」という言葉も生まれた。

とはいえ、長崎の人たちにとっても、上海は決して楽園とは言えなかった。多くの商人が事業に失敗した。1870年にはわずか7人だった日本人は、その後、徐々に増えていくが、割合的には女性が多かった。明治初期、長崎の貧しい農家の娘たちは、幹旋業者を通して中国やアジアに送られ、外国人相手の妾や娼婦として働かされていた。いわゆる「からゆきさん」である。1880年代、外滩周辺には、「東洋茶館」と名付けられた妓楼が登場し、大人気となった。店内では長崎弁が飛び交っていた。もちろん、当時、長崎が特別貧しかったわけではなく、貧しい長崎の農家のすぐ隣に、国際都市・上海があったというだけのことである。初期の頃、長崎の商店が扱っていたのは、こうした妓女に向けたくしや鏡などの化粧道具であった。しかしながら、体面を重んじる日本の同胞からの視線は冷たく、異国で辛酸をなめる彼女たちは悲惨な身の上に耐え忍ぶしかなかった。1880年代の後半になると、日本領事館は日本人の売春行為を禁止し、上海から日本人の妓女は一掃される。

19世紀の後半になると、日本は急速に近代化を果たした。特に日清戦争の勝利以降は、日本製の日用品が多く輸入され欧米製の商品よりも安い「東洋貨」として人気となった。日本人の居住者も増え、1905年には2000人余りと、既にイギリスに次いで第2位となっている。その後も、日本は日露戦争や第一次世界大戦と戦争を経る度に国際的な立場を増し、それにつれて上海における日本人の存在感も増していった。特に第一次世界大戦後は、多くの日本資本が進出してきた。1915年に日本人居住者の数はイギリスを抜いてトップとなり、1927年には上海

の外国人居住者の約半数を占めるほどになっていた。

当時の日本人は、「虹口（ホンコウ）」というエリアに集中していた。ここでの日本人は、大企業や大銀行の社員として赴任してきた「会社派」と呼ばれる人々と、上海で骨を埋めるつもりでやってきた「土着派」と呼ばれる人々に階層が分かれていた。虹口では、「土着派」の日本人が商店を開き日本人向けの商売を行っていた。「会社派」のエリートはイギリス人居住区の高級マンションに暮らしていたが、「会社派」の中間層と「土着派」は虹口に住んでいた。



1920年代の外灘

4. 租界の終わり

そもそも、イギリス商人の居住地として開かれた租界であったが、その特殊性から、様々な国の人々が集まってくるようになった。フランス人、アメリカ人を始め、日本人、ドイツ人等々、国際的な情勢に応じて居住者の増減があった。さらにイギリス人はインド人を、フランス人はベトナム人を連れて租界の警官に仕立てた。アメリカ人はジャズバンドの奏者としてフィリピン人を連れてきた。望んでやってくる人たちではなく、やむを得ず辿り着いた人々も多かったのだ。そして難民である。

最初に現れたのは「白系ロシア人」である。1917年にロシア帝国でロシア革命が起こった。この時、社会主義政権のソヴィエト政府から逃れて国外に亡命したロシア人を「白系ロシア人」と呼んだ。金に余裕があるロシア人はヨーロッパに逃れており、上海にたどり着いたロシア人は身一つで逃れてきた貧しいロシア人が多かった。租界の外国人は、そんなロシア人を嫌がった。しかし、白系ロシア人はどんどん数を増し、日本人、イギリス人に次ぐ勢力となっていった。一方、租界に住む中国人にとって、白系ロシア人は初めて目にする自分より貧しい西洋人だった。行き場を失った貧しい白系ロシア人たちは、そんな環境に黙々と耐え抜いた。男性は中国人に交じって肉体労働を行い、女性の一部は売春行為に耐えた。しかし、こうした白系ロシア人は、貧しいとはいえ、元々はちゃんとした職業に就いていた人も多かった。特にロシア芸術の教育を受けていた者も少なくなかった。白系ロシア人は、音楽学校の教師となり、本物のロシアンオペラやバレエを上演するに至った。白系ロシア人は、上海に、西洋の本格的な芸術文化をもたらした。貧しいロシア人は、中国人にとっても身近な存在であった。本当の意味で上海に西洋文化を伝えたのは、ロシア人かもしれない。

次に逃げてきたのは、ユダヤ人だった。ナチスの反ユダヤ政策により、ユダヤ人に対する迫害が始まると、ユダヤ人たちは一斉に国外脱出を試みる。しかし、当時、世界中のどこを探しても暖かくユダヤ人を迎えてくれる

国はなかった。杉原千畝は命のビザを発行し続けたが、これは日本の通過ビザであり日本への滞在可能日数はわずかだった。世界でたった一か所ユダヤ人が行くことが許された場所、それは国という枠から外れた世界で唯一の特殊エリア「上海」だった。大量のユダヤ人が身一つで流れ込んできた。上海での貧しい暮らしは苦労と苦痛の連続である。しかし、ユダヤ人たちは高い教育や技能を学んだものも多く、徐々に才覚をいかして上海に溶け込んでいった。ユダヤ人にとって、上海は決して天国ではなかった。しかし、そのおかげで地獄に送られずに助かった命がたくさんあったのである。

このように、上海は、世界中のゆがみを全て受け止め、自身の中に取り込んでいった。私が最初に驚きを覚えた上海の外国人に対する寛容さと適応力の高さは、ひょっとしたらこの時から深く刻まれている上海という街のDNAなのかもしれない。

しかし、その上海が、ついに自由を失う時が来る。日本である。まず、満州事変直後の1932年に初めての軍事衝突「第1次上海事変」が起こった。この時は停戦協定が結ばれたが、1937年に盧溝橋事件が起こると、続いて日本軍は上海に侵攻し「第2次上海事変」を引き起こした。これに勝利した日本軍は勢いに乗って当時首都が置かれていた南京まで侵攻し、これを陥落。日中間は後戻りできない戦争状態に突入した。日本軍は1941年には日本人居住エリア「虹口」から外滩がある共同租界中心部に進駐し、日本敗戦までの間上海を支配下においた。イギリス人やアメリカ人は敵国人として収容所に送られた。企業の資産は差し押さえられた。多くの外国人は上海を逃げ出し、ユダヤ人は居住エリアを隔離された。一方、日本人居住者は10万人を超えた。上海が初めて味わう「支配」であった。



かつての日本人居住地

5. 上海の今

上海は、日本の敗戦とともに解放された。しかし、「租界」という特権を失った上海は、戦前の華やかな世界から灰色の長い眠りの時代に入る。60年代に起こった「文化大革命」は、中国固有の古い習慣や思想の打破を掲げていたが、首謀者である「文革四人組」が上海から出現したのは実に皮肉な話だった。鄧小平はその文化大革命を終結させた。しかし、上海の目覚めの時はまだ訪れなかった。天安門事件の後、1992年に鄧小平は経済を再び成長軌道に乗せるため上海を訪れ「なんで上海をもっと早く経済特区にしなかったのか」と悔やむ。彼の後継者として1993年に国家主席に就任した江沢民は、上海市長を務めた人物だった。江沢民は「上海閥」を形成し、経済優先の国家経営を行い、上海の猛烈な経済発展が始まる。今からわずか25年前の出来事である。

本当の「差別化」とは何なのか？

J-Tech Transfer and Trading 小島 尚貴



毎日世界各国のバイヤーに九州各地の製品を売り込む仕事をしていると、商品企画や営業手法にも国民性が見えてきます。とりわけ日本人経営者やコンサルタントが多用、あるいは乱用すると感じるのは「差別化」という言葉です。あたかも学校教育における個性尊重主義のビジネス版で、とにかく日本では違うこと、新しいことそれ自体が価値を持つと思われており、中には売れ行きが良くなくても、やせ我慢で「他と同じことはしない」と言い張る経営者もいます。こういう企業にとっては、本来手段に過ぎない「違うこと」は、それ自体が目的と履き違えられており、認識の中で主観と客観の倒錯が起っています。

世の多くの経営者が「差別化に力を入れよう」と奮い立ち、コンサルタントが「差別化が重要です」と助言するほど、多くの商品や事業が客観的には大差のない金太郎飴のように似通っていくのはなぜでしょうか。私も時々、コンサルタントに「あなたの差別化の定義を教えてください」と尋ねますが、ほとんどの方が「はっきりした違いや特徴を打ち出すことです」と聞き飽きた答えを言うだけで、納得のいく定義や独創的な解釈を即答するコンサルタントに会ったことはありません。

差とは性質や程度、あるいは価格の違いを言うのですが、そもそも、「違う」という結果は比較という作業の帰結です。ゆえに、「違いを出そう」と力むほど頭脳は比較作業に集中し、同じ基準の小さな差異に意識が向いてしまい、結果的に「差別化しようとするほど、意に反して競合製品と似ていく」という逆説的な結果を迎えてしまいます。作り手や売り手は「ウチは他とは違う！」と主張しますが、成分やスペックの多少の違いを細かく説明されたところで、買い手側がその差を高く評価することは少なく、その前に差そのものを認識できないものです。換言すれば、客がAかBかと購入を迷う製品は差別化できていないのです。程度を比較される製品のリス

クは、「差で選ぶ客」に買われることそれ自体であり、安さで買う客は安さで去り、量で買う客は量で去ります。差別化に失敗した製品を買う客の忠誠心は低いため、「買った理由＝去る理由」となり、結果的にそんな製品を持つ企業ほど差別化を叫び続けるわけです。

したがって弊社では、差別化を「比較さえできない前提から構想し、競合を無力化する行為」と簡潔に定義しています。本当の差別化とは、比較を許さない基準で発想され、認識の軸が別次元に移った時に達成されるもので、真に差別化された製品の前では、競合は完全に無力化されます。刀しかない時代の鉄砲、爆弾しかない時代の核兵器、早馬しかない時代の電話のように、同一目的を達成する手段が根本的に異なる時、そこに差別化が達成されています。昔、「フジテレビの敵は日本テレビではなくファミコンだ」という言葉がありました。テレビを舞台とする性質上、「いかに視聴率を稼ぐ番組を作るか」という内容の差で競い合っていた各局が、放送用ではなかった2chからテレビをファミコンに奪われたのは、「消費者の時間争奪戦」における差別化の分かりやすい例でしょう。インドネシアを席卷したブルーバードタクシーも、「ぼったくらない」という革命を通じて圧倒的な差別化を果たした成功事例の一つです。

さて、最後に本題。初の担当コラムで「差別化」を話題にしたのは、中小企業の海外展開における差別化が表層的で中途半端な自己本位、自己満足の作業に終わっているケースが多く、常々もったいないと感じているからです。海外で日本企業が成功した差別化は、お客様のニーズや市場の動向に着想を得た事例が多く、相手に発見、評価された価値を製品として表現した事例がほとんどです。そういう製品はバイヤーさんが勝手に「すごいぞ、新しいぞ、いいぞ」と広げてくれます。具体例をご説明しようかと思ったら、紙幅が尽きました。続きはまた次回。



暮らす上で、今後ますます重要になる地政学的な重要ポイントだと思っている。アヘン戦争が起こるまで、上海周辺の港と言えば、浙江省・寧波だった。そして、江戸幕府が海禁政策をとるまで、その寧波と対をなして日中貿易を担ってきたのは博多だった。よく日中関係を「一衣帯水」と呼ぶ。福岡や長崎は一衣帯水の「こっち側」で、上海や寧波は一衣帯水の「向こう側」。プレイヤーが交代しながらも脈々と続いている日中の最前線なのだ。

そして今、上海は、再び世界的プレイヤーとなってワールドカップの舞台に戻ってきた。福岡の向こう岸・上海に、世界中の現代商人たちがビジネスを求めて集まる。フラットに考えて、福岡にとってもチャンスだ。実際、上海で暮らしていると、上海との経済的つながりを求めて日本のあちこち、世界のあちこちから集まった人たちから、福岡の地の利をうらやむ声を耳にする。まるで、有名人の隣の家にたまたま生まれてしまったような感覚。上海から見た福岡はそんな場所だ。そしてこれこそ福岡が頭の片隅に置いておきたい地政学的な優位性だ。歴史が証明している。

例えば、かつての上海租界と長崎で起こったことを振り返ってみる。いち早く上海―長崎航路が就航し、上海から西洋の商人がやってきた。多くの長崎人が新天地を夢見て上海を目指し、「土着派」として上海で一大勢力を築き上げた。そしてもう一つ。「雲仙温泉」だ。雲仙は戦前に欧米人の保養地として栄えた。昭和初期にはモダンな洋式ホテルも建てられている。欧米人はどこから来たのか。もちろん上海租界である。租界の欧米人は、都会の喧騒を離れ、癒しを求めて長崎に渡ってきた。雲仙温泉は、上海から見て、手軽で安心して旅行ができる「田舎」だったのだ。東京を中心とした日本経済の観点だけで眺めると、恐らく思いつくことないような地域戦略である。そして現在、長崎と上海を26時間で結んだ連絡船は既がない。しかし、上海租界の欧米人が押し寄せたのと同じ理由で、数十万人の観光客がクルーズ船に乗って福岡に流れ込んでくるようになった。歴史は、ただ繰り返しているだけなのだ。

だが、有名人の隣人に生まれついたとしても、それだけではただの隣人で終わるだろう。この幸運をいかすためには、私は、積極的に上海との近所づきあいをする福岡の人が増えることを願っている。頻りに隣人宅を訪れ、隣人の成長を感じながら、相手が成長の過程でぶつかる困難に手を差し伸べる。きっと、それは自然に福岡のビジネスになる。また、隣人が優れている点を学び、自宅に帰って応用してみる。これもきっと福岡のビジネスになる。相手は、世界2大経済大国の一つ中国にあって最も発展している都市だ。上海から「一帯一路」を通してヨーロッパまでつながっていく時代に、やれることなど、これからも山のように転がっているはずだ。もし、ここで近所付き合いをやめて、テレビや雑誌を通して相手の近況を知るだけになっているとしたら、結局地理的優位性など何も残らない。

上海の情報は、東京を経由しない。福岡から直接取りに行く。そんな人が増えたら嬉しい。そして、生の情報が福岡に蓄積された時、きっと斬新な新しいビジネスが生まれるはずだ。後はそれをゆっくり日本全体に広げていく。それこそ福岡や長崎が「一衣帯水」の向こう岸との間で続けてきたビジネスモデルであり、かつての博多商人の矜持そのものだったと思うのである。

(次号へ続く)

上海は、そこから25年で人口が約1000万人増加した。人が増えると、住居が必要となる。不動産価格は天井知らずで上がり続けた。2010年から2016年までの不動産価格だけでも3倍にあがっている。5,000万円の住居が6年で1億5千万円になる計算である。昔から上海で暮らしていた人は再開発のために立ち退き料を手にして新しい住居に移り住んだ。新しい住居でも不動産価格はどんどん上昇した。売却益で投資を始めた。人口は増え続け、不動産需要は増え続けた。外灘の対岸の浦東地区も90年代に開発が始まった。子供のおもちゃのようにクレーンが並ぶ姿を見て、バブル崩壊直後の日本人は鼻で笑っていた。しかし、浦東地区の高層ビル群は、気が付けば上海を代表する景色になっていった。それでも日本では根強く「中国バブル崩壊論」が残っている。日本人が中国の崩壊を祈り続けている間に、上海市のGDPは1つの都市で九州全体の経済規模と肩を並べるレベルに成長した。日本人が「失った20年」と嘆いていた同じ時間を使って、上海人は「富裕層」などと揶揄されるまで豊かになった。考えてほしい、60代の会社役員が40代の頃に見聞きたという中国の話は、もはや思い出話以上の価値はないのである。

さらに今、上海の人口は増加をやめた。発展期から安定期に入ろうとしているのだ。マンガのような高級車が走る風景も、見たこともない高級犬を散歩する上海人の姿も、日常の風景と化した。海外旅行など珍しくもない。海外でブランド品を買い漁って帰国する姿もどこか浅ましく思えてきた。生活には余裕が必要だ。大事なものは美容と健康。酒も控えて、タバコもやめて、ジム通いを始めた。生活空間は個性で満たしたい。自分だけのこだわりも増えてきた。良い品を安く買えたら嬉しい。

お金は、自分を成長させてくれる体験のために使いたい。自然豊かな場所もいい。常に追い立てられる上海を離れてのんびりしたい。でも、汚くてゴミだらけ、上海人を見たら騙しにかかるような中国国内の旅行はまっぴらごめんだ。何よりトイレが汚い。上海以外の中国には住めたものではない。できれば海外がいい。のんびり海外に出かけて、自然の中で素敵な体験をしたい。親も子供も連れていけば、きっと喜ぶはず…。

皆さんが、FIT(自由旅行)の観光客として目にする上海人は、このように変化してきている。幾多の紆余曲折を経て、ようやく上海人が普通の幸せを手にし始めてきたようにも見える。



高層ビルが立ち並ぶ現代の浦東地区

6. 上海と福岡

上海の歴史を大雑把に振り返ってきた。こんな稀有な体験を持つ上海は、福岡からわずか900km。東京とほぼ同じ距離に位置する。そして、これは、これから福岡で

セミナー等開催報告

通関・食品輸入手続き入門セミナー

- <日 時> 6月28日(木) 10:00~16:30
<場 所> 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
<内 容> 第1部:「通関手続入門」
・税関と輸出入通関の流れについて
門司税関博多税関支署 統括審査官(通関総括部門)
・関税品目分類について 門司税関業務部首席関税鑑査官
第2部:「食品輸入手続入門」
・植物検疫制度について 門司植物防疫所福岡支所 次席植物検疫官
・畜産物輸出入の手続き 動物検疫所門司支所博多出張所 主任検疫官
・輸入食品等の安全性確保と輸入手続 福岡検疫所食品監視課輸入食品相談室長



参加者のことば

- 社内教育や顧客への説明にこの度頂戴した資料と講義内容が活用できます。
➤ 輸出先国・品目の輸出条件等の最新締結状況や、H30年4月付けの輸出検査変更点をこのタイミングで学べて良かった。

英文ビジネスEメール入門講座

- <日 時> 7月11日(水) 9:30~16:30
<場 所> 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
<講 師> みね事務所代表/中矢一虎法務事務所(司法書士行政書士)
シニアマネージャー 峯 愛氏
<内 容> 英文ビジネスEメールの基礎、輸出入シーン別Eメール、ちょっとした工夫



参加者のことば

- 工夫されたメールのやりとり方法、定型例文が多数あり早速利用でき今後に生かせそうなことが多々ありました。

輸出ファクタリングセミナー

- <日 時> 7月18日(水) 16:15~17:00
<場 所> 福岡商工会議所2階 第2研修室
<講 師> ヤマトクレジットファイナンス(株) 営業戦略部部長 井村 稔氏
<内 容> 輸出代金回収リスクを解決するファクタリングサービスについて



参加者のことば

- 客先との支払い条件交渉の際に選択肢が増え、小口の輸出ファクタリングの手法が理解できた。

グローバルビジネスに有効なリベラルアーツとは?

- <日 時> 8月7日(火) 18:30~19:30
<場 所> 福岡貿易会事務所
<講 師> ベルリッツ・ジャパン(株)法人営業本部人財開発営業室室長 清水 高明氏
<内 容> これからのグローバルビジネスで必要になるスキルとは



参加者のことば

- 基本的な教養をベースに更に深く思考しアウトプットしていくことが重要で、自発的に仕事が出来ていないことに気づき、今後の取組方のヒントを得られた。

外航貨物海上保険セミナー

- <日 時> 8月23日(木) 14:00~16:30
<場 所> 福岡商工会議所ビル4階 401・402会議室
<講 師> 三井住友海上火災保険(株) 法人営業第三課 五木田 浩志氏
海損部九州海損グループ 川口 智美氏
<内 容> 外航貨物保険の基礎、リスクマネジメント、事故発生時の対応



参加者のことば

- 外航貨物海上保険がどのようなものなのか基礎から教えていただき助かりました。

ニューメディア型「PR」×「EC」の新提案とは

- <日 時> 9月10日(月) 18:30~19:30
<場 所> 福岡貿易会事務所
<講 師> (株)中国商業電訊 商務&メディア総監 楊 帆氏
<内 容> リアルな「中国マーケティングの新潮流と攻め方」を徹底解説



貿易実務講座(輸出実践編 & 輸入実践編)

- <日 時> 輸出実務編:10月17日(水) 9:30~16:30
輸入実務編:10月18日(木) 9:30~16:30
<場 所> 福岡商工会議所ビル2階 第2研修室
<講 師> 中矢一虎法務事務所(司法書士行政書士)代表 中矢 一虎氏
<内 容> 輸出:輸出実務の基礎と重要ポイント、新しい貿易支払い条件他
輸入:EPA、FTAの活用、輸入業務の流れ、電子貿易決済サービス他



参加者のことば

- 輸出入者間で起こりうる交渉、対処については、特に要点が分かり易く知識を整理することができました。また、TSUやBPO等、新たな取引形態についても助言いただき、大変有意義でした。
➤ INCOTERMS別の計算の説明が分かり易かった。事例紹介の部分が有益でした。FTA/EPAの内容も良かったです。

外国人技能実習制度とは?

- <日 時> 10月19日(金) 14:00~15:30
<場 所> 福岡商工会議所ビル4階 407会議室
<講 師> 協同組合福岡情報ビジネス 代表理事 藤村 勲氏
<内 容> 技能実習制度の概要(仕組み)、技能実習生の受入面接から帰国まで
受入企業の費用、新たな在留資格について



参加者のことば

- 現行制度の概要、現在議論されている新在留資格制度の論点がよく理解できました。

福貿グローバル塾海外販路開拓実践編

- <日 時> 4月18日~9月19日 毎月1回 14:00~16:00
<場 所> 福岡商工会議所2階 第2研修室
<講 師> J-Tech Transfer & Trading 代表 小島 尚貴氏
<内 容> 海外バイヤー視点での「日本の中小企業の製品」の見え方
売り込まず、相手に「買いたい」と言わせる
無駄なコストを削減し利益率を上げる
価値を落とさず、「高く売る」、バイヤーと組んで「長く売る」



参加者のことば

- 今回学ばせていただいた事例や、先生の商品開発、アレンジ、企画の工夫は、本当に勉強になりました。貿易取引における相手と自分の関係性をもう一度見直し、三方よしの心構えで、相手への信頼を持ってさらに積極的に貿易取引を増やしていきたいと思えます。今後も遠慮なく、会を活用し、小島先生はじめ、アドバイザーの方々にご多量に相談させていただきます。とても良い機会を作ってください誠にありがとうございました。

ビジネス英会話講座初級編

- <日 時> 4月19日~8月2日 毎週木曜日19:00~20:30 全15回
<場 所> 福岡貿易会事務所
<講 師> シーモア イングリッシュ アカデミー 代表 Mr. Anthony Seymour
<内 容> 紹介とあいさつ、スケジュール調整、ホテル等予約、EMAIL等



参加者のことば

- 英会話講座に初めて参加しましたが大変良い雰囲気での講座に大変満足しました。

2年目の中国語会話(前期)

- <日 時> 4月25日~8月8日 毎週水曜日19:00~20:30 全15回
<場 所> 福岡貿易会事務所
<講 師> 中国語教室一語学EIWA 代表 李 岩氏
<内 容> 道案内、買い物、乗り物に乗る、外食、郵便局で、病院で



参加者のことば

- 自信ない時、良く分かっていない時、何故か!必ず!100%!質問される事が、とてもとても不思議です。
自信がない→質問される→答えられない→答えられるまで繰り返し質問される→頭に入る→クセになる。

英語で学ぶIT Business

- <日 時> 7月10・17・24日 毎週火曜日19:30~20:30 全3回
<場 所> 福岡貿易会事務所
<講 師> ict factory llc Representative Director Ms. Rebecca Woywod
<内 容> An introduction to IoT, IT Strategy and Innovation Framework



参加者のことば

- とてもレベルが高い講座でしたが、良い刺激となりました。有難うございました。

広州市経済交流会

7月31日（火）、福岡市、福岡市姉妹都市委員会との連携のもと、広州市訪問団をお迎えして経済交流会を開催しました。福岡・広州両市長の出席のもと、広州企業のEHANG社（ドローン技術）、Net Ease社（オンラインゲーム）、iFLY TEK社（AI技術）が最新技術を披露して会場を沸かせました。

土屋会長が結びの挨拶を務められ、福岡貿易会が両市の友好都市締結に先立つ1978年に福岡の経済団として初めて広州市を訪問したことやこれまでの交流の実績のほか、来年の友好都市締結40周年に向けて互いに刺激し合う関係でありたいとの思いを述べられました。



ミャンマー・ヤンゴン ビジネスセミナー

9月6日（木）、ミャンマーの最新ビジネス環境の紹介と、昨年度に福岡市・福岡貿易会、九州経済国際化推進機構がそれぞれ実施した経済ミッション派遣の報告会を兼ねたビジネスセミナーが開催されました。

報告会では龍造寺副会長（福岡市・福岡貿易会ミャンマー経済視察団団長）がミッションの総括、成果等について講話をされ、参加者にとって今後のミャンマービジネスの可能性を感じる良い機会となりました。



会員勉強会・交流会

毎回会員企業2社がスピーカーとなって自身のビジネスへの思いや考えを自由にお話いただく会員勉強会交流会を2ヶ月に1度のペースで開催しています。毎回30～40名の方に参加いただいております。特色有る企業から興味深いお話が聞ける場、ざっくばらんに交流が深まる場として大変好評を頂いております。今後も引き続き行ってまいりますのでぜひお気軽にご参加下さい。またスピーカーでのご参加も随時募集中です。事務局までお声かけ下さい。

実施回	実施日	スピーカー
第2回	6/22（金）	ジャパンテックリンク(株) 代表取締役 張琳 様 タカハ機工(株) 専務取締役 大久保千穂 様
第3回	8/22（水）	(株)クレディセイフ企業情報 リサーチディレクター 石井雄一郎 様 ニワカソフト(株) 事業戦略室 石田洋子 様
第4回	10/29（月）	西研グラフィックス(株) 代表取締役社長 並田正太 様 プラネットウェイ(株) 福岡支社長 山本公平 様



ラオス南部のダム決壊による水害支援

今年7月末、ラオス南部のダム決壊による死者・行方不明者多数及び農作物の甚大な被害が発生しました。福岡貿易会会員が主体となっています福岡ラオス友好協会が水害被害に対しまして会員からの募金を募り支援金として駐日ラオス人民民主共和国大使館、ヴィロード特命全権大使宛に送りました。

10月2日駐日ラオス人民民主共和国大使館にて、ヴィロード特命全権大使より感謝状を受領し、大使から「これからも引き続きラオスへの支援をお願いしたい」とのお礼の言葉」と併せて「ラオス航空の福岡空港直行便乗り入れ」と「倒れられた中島前在福ラオス名誉領事の後任として久原本家河邊代表の就任の手続きがほぼ完了した」とのお話がありました。



ヴィロード大使より感謝状を受領

福岡貿易会設立60周年記念ゴルフコンペ

10月23日（火）、伊都ゴルフ倶楽部にて、福貿会設立60周年記念・第73回ゴルフコンペを開催しました。土屋会長、小林副会長を始め総勢46名の参加で、和やかな雰囲気の中で秋のコンペを楽しみました。表彰式では会員企業のご協賛による豪華賞品で大いに盛り上がり、60周年記念に相応しいコンペとなりました。ご協賛いただいた皆様にあたためてお礼申し上げます。



新会員の紹介

ニワカソフト株式会社

代表者：代表取締役 古賀 聡
所在地：〒810-0005 福岡県福岡市中央区清川1-9-19
渡辺通南ビル5階

TEL：092-406-5353 FAX：092-406-5373

MAIL：info@niwakasoft.jp

URL：http://niwakasoft.jp

主要業務：

Webコンテンツ及びアプリケーションの開発
各種プログラム・データベースの開発、及び管理
スマートスピーカー総合ガイドサイトの企画・運営
RoboMaster日本大会の運営、出場ロボットの設計・開発
eSportsイベント企画、コミュニティ運営



当社の特色：

福岡を拠点にwebコンテンツおよびアプリケーションの開発を行う。2018年から新たに中国で熱狂的な盛り上がりを見せる次世代ロボットコンテスト「RoboMaster」に挑戦。チームを育成、競技用ロボットを開発し、日本チームとしては初参加。その経験を活かし、2020年日本地区戦開催に向けてプロジェクトを始動。また、同年、日本最大級のスマートスピーカー総合ガイドサイト「smartio」も運営開始。今秋から新たにeSports事業も展開予定。



株式会社ジーコム

代表者：代表取締役 新貝耕市
 所在地：福岡市中央区天神4丁目1-1 第7明星ビル7階
 TEL：092-761-0221 FAX：092-761-0228
 MAIL：inq@gcom-net.co.jp
 URL：https://gcom-net.co.jp/
主要業務：
 ・B to C事業者様向けのマーケティングリサーチ
 ・プロジェクトサポート型のビジネスコンサルティング
 ・マーケティング人材の育成支援
 ・一般生活者を対象としたアンケートモニター組織の運営
 ・アジア（主に台湾、ベトナム）におけるビジネスリサーチ、コンサルティング

当社の特色：

弊社は、マーケティングリサーチとビジネスコンサルティングの専門会社です。創業以来32年、福岡・九州エリアをメインフィールドとして事業者様のマーケティング課題の解決をサポートさせていただいております。リサーチによる現状把握から、戦略立案、プロジェクトの進行まで一貫通貫でサポート可能な会社として、独自のポジションを築いております。

安達株式会社

代表者：代表取締役 社長 安達健太郎
 所在地：長崎市浜町1番7号
 TEL：095-822-0161 FAX：095-824-4071
 MAIL：contact@adachi-kk.co.jp
 URL：http://www.adachi-kk.co.jp
主要業務：
 社会の様々なニーズに応える企業活動を行なう総合商社として、空圧・油圧・電子機器、配管材料、計装・制御システムなど、発電所をはじめとした各種プラント用機器、航空機・ロケットや船舶・水中機器などに搭載される電子機器、制御機器を取り扱っております。

当社の特色：

明治39年の創業以来、機械・電機・工具等の販売を通じて、様々な分野で皆様の企業活動の支援をさせていただいております。おかげさまで多くの企業の皆様にお声をかけていただき、さらに海外においても着実に実績を積み上げてまいりました。これからも、お客様によりご満足いただける製品をお届けするだけでなく、多様なニーズに迅速にお答えできる態勢を構築し、「信・和・礼」の社是と共に社員一同、貢献できる会社であり続けたいと願っております。

中村国際法律事務所

代表者：代表弁護士 中村亮介
 所在地：〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目12-14 紙与渡辺ビル8階
 TEL：092-717-2055 FAX：092-717-2056
 MAIL：info@nkmlaw.jp
 URL：http://nkmlaw.jp
主要業務：
 ・国際法務（国際取引・国際民事紛争処理）
 ・企業法務（顧問業務・契約書・労務・債権回収・M&A）
 ・人身障害事故（交通事故・労災学校事故・医療過誤）
 ・家事事件（相続・遺言書作成・離婚）

当社の特色：

当事務所は、英語・中国語を必要とする国際案件に強みを持ち、日本企業・中国企業のための日本における法律業務全般を取り扱っております。現在の取扱業務は、およそ国内案件70%、国際案件30%です。国際案件の殆どは中国案件です。また、交通事故、相続、遺言書作成、離婚など個人のご相談にも対応しております。依頼者に対して誠実であることを第一に、日々、業務に取り組んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。



原田晴行行政書士・海事代理士事務所

代表者：代表 原田晴行
 所在地：福岡市中央区大名2-10-31 ネオハイツ天神602
 TEL・FAX：092-716-8095
 URL：haruyuki-harada@h2.dion.ne.jp
主要業務：
 国際貿易（輸出入）の支援及び法律文書・証明書類の翻訳（英語、韓国語）



当社の特色：

20代のころは東京の貿易商社に勤めて、香港やタイ、韓国、アメリカに行っていたほか、中国、東南アジア、ヨーロッパ等とも取引をしておりました。30代で行政書士・海事代理士として起業して、国内法務を中心に仕事をしてきました。現在では、貿易実務の経験と法務の経験を合わせて、国際貿易支援と翻訳を軸に仕事をしています。これから、もっと国際貿易の役に立つサービスを作っていければと思っています。

株式会社三松

代表者：代表取締役社長 田名部 徹朗
 所在地：福岡県筑紫野市岡田3丁目10番9号
 TEL：092-926-4711 FAX：092-926-2048
 URL：https://www.sanmatsu.com/
主要業務：
 金属加工をベースに各種機械装置の組立（アッセンブリ）を行う。（SS材、ステンレス、アルミの板、パイプ等の鋼材より筐体・缶体を製造し、その中に機械・電気部品などを組み込んでいく）



当社の特色：

1972年設立。九州名産の葉タバコ乾燥機の製造から事業をスタートし、産業構造や企業を取り巻く環境が劇的に変化していく中、板金加工業から「小ロット製造代行サービス会社」へと業態を変化させていった。IoTやAIを活用した管理システムで強化し、近年では、3次元CADを活用したシュミレーションソフト「SMASH」を開発し、大手ロボットメーカーと協業しながらロボット・ソフトの開発にも取り組むほか、医工連携、素材プロセス産学連携、ベンチャーキャピタルとの連携など多角的に事業を展開。また、デザインの要素を取り入れたBtoC製品『金属王』FLOWシリーズにも力を注いでいる。

Junno Design合同会社



代表者：アントン・ノフク
 所在地：福岡市城南区片江1-1-26 シェスワ城南1F
 TEL・FAX：092-407-4192
 MAIL：japan@junnodesign.com
 URL：www.junnodesign.com
主要業務：
 ・古材を再利用したデザイナー家具や
 カuttingボードの販売
 ・天然艶出し蜜蝋ワックス・オイルの製造
 ・銀イオン(Ag+)抗菌アプリーケータの製造

当社の特色：

「環境保全」の為、破棄されようとしている木材を再利用し、デザイン性の高い家具やCuttingボードを作っている会社です。木材を長く美しく利用するためのメンテナンス商品なども製造しております。品質も「MADE IN JAPAN」にこだわり、2016年冬 日本に拠点を移しました。環境にやさしい、人にやさしい、未来につながる商品をこれからも作り続けていきます。



Global Connect Fukuoka株式会社

代表者：代表取締役・董欣 代表取締役・柳基憲
 所在地：〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-11 Fukuoka Growth Next 3F
 TEL・FAX：080-8554-5622
 MAIL：gcf@gcfnettv.com
 URL：http://gcfnettv.com/
 https://www.facebook.com/gcf.fukuoka/
主要業務：
 GCFは世界と福岡の架け橋となり、地域生活・文化・経済などの生情報の双方向での発信を実現するため、グローバル人材の交流やニューメディア型「PR」×「EC」プラットフォームを創出することを使命としております。

当社の特色：

グローバル人材の交流プラットフォームとしてグローバルリポーターを起用し外国人向けのネット放送局「GCF-TV」や外国人コミュニティ「GCFカフェ」を運営することで、ソーシャルメディアを活用した独自のグローバル人材の活用や支援の仕組みを提供いたします。ニューメディア型「PR」×「EC」プラットフォームとして、成長著しい中国のリアルなマーケティングの新潮流と攻め方をご紹介し、効果的なPR戦略やECプラットフォームを提供致します。



株式会社太陽設計

代表者：代表取締役社長 田中一樹
 所在地：本社：福岡市中央区草香江2-1-23 東京：東京都港区芝大門2-4-8
 TEL：092-761-1266 FAX：092-761-4655
 MAIL：kazuki@taiyo-sekkei.com
 URL：http://taiyo-sekkei.com/
主要業務：
 建築物の調査・計画・設計・工事監理・建築コンサルタント、既存建築物のリニューアル設計監理及び耐震診断、PFI（民間資金などの活用）事業の実施方針の策定等、土地有効活用の企画立案及び資産運用コンサルタント

当社の特色：

1971年福岡市内で創業。海外に事業所はありませんが、1970年代に台北にて環境衛生施設の設計を2棟行いました。現在は福岡と東京に拠点をもち、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、九州・沖縄まで、北海道以外のすべての都道府県で設計監理業務を行っております。用途は金融、オフィス、文教施設、大学関連施設、医療施設、福祉施設、商業施設、生産施設、物流施設、共同住宅など広範囲に設計監理業務を行っております。



株式会社エフケイ 福岡店

代表者：代表 大石 博明
 所在地：福岡市博多区博多駅前4-14-20-902
 TEL・FAX：092-477-2678
 MAIL：hohishi@mbg.nifty.com
 URL：http://www.efu-kei.co.jp/
主要業務：
 1986年9月設立の生命保険・損害保険代理店で保険手数料21億円であります。生損保の取り扱い社数約40社で、代表生損保は全て取り扱いを行っています。

当社の特色：

法人に重点を置き、総合的なリスク管理提案を重点に活動を行っています。なかでも、海外取引における契約締結段階およびトラブル発生段階でのアドバイスをを行います。特に、契約段階でのリスク管理に重点を置きアドバイスをを行います。



有限会社 緑商【ロクショウ】

代表者：代表取締役 田代 孝
 所在地：〒861-0426 熊本県山鹿市菊鹿町木野3887
 TEL：0968-32-8511 FAX：0968-32-8522
 MAIL：t-ichigo@mx22.tiki.ne.jp
 URL：Osj15.jp
主要業務：
 1) 機能性農産物、飲料食品の生産製造販売
 【イチゴ、レモン、米、漬物、その他】
 2) 農業生産加工製造技術コンサル



当社の特色：

1980年食による危険と不安現象に実際直面し生命体として未来人類の存命とあり様に強い危機感を感じ、安心安全を超えた機能性付加領域へ一次生産から製造レベルまでを世界的に変換させる必然性を痛感しその技術探求に挑戦して来ました。1987年からイチゴを通じ「栽培と治療」に取り組み納得した商品販売をさせていただいております。2010年より海外現場でも多様な気象条件下で技術再現の確認に多品目的に関わっております。



Dear Readers! How are you doing? I hope your business is going well. 貴社の全社員が当コラムをご覧頂けると幸いです:

海外企業とのemailコレポでは、取引相手をこちらの意の通りに巧く動かす様に書ける事が貿易取引成功のカギです。その為には、1)「数字/期日」を使う(前号参照の事)、かつ、2)「副詞を巧く使う事:副詞は便利な役割を持ち、発言者の「本音や意図」を「副詞」に込める事が出来ます:※企業人向けのビジネス英語研修で、この大事な技法を指導しない講師が多いですが、**「ビジネス英語研修はぜひ当社にご依頼下さい」**

※「副詞」を上手く使うと温かい心配りができ、海外取引相手を動かす表現が可能となります。

例1)「貴殿の助言のおかげで、当事業を先月実行出来ました」これを⇒[Thanks to your advice, we carried out the project.]と英語発信する方が殆どでしょう。学校テストではそれで◎ですね。が、「心こもる英語コレポ」では物足りません。

[Thanks to your nice advice, we successfully carried out the project.]という風に、例えば、successfully(副詞)を入れると、「上手く実施が出来たから有難う」という発言者の喜びを出せます。なお「喜び」は英語の心情基盤です。

例2) 貴社商材の紹介で「この新機種はコンパクトさが特長です」 ←英語でサッと云えますか?

こういう時が「副詞」の出番です:日本人の多くは、字面の通りに英語で云おうとしますので、[The feature of this new model is its compact size]とか [This new model is

featured with its compact size.]と云う方が多いのですが、副詞を使い【This new model is **amazingly** compact!】と云えば、「compactが特長」の意が出せます。

日本人は概ね、発言や文が冗長/キレがないです。**副詞を使えると発言にキレが生まれ、印象的な言い方が出来ます。**上の[amazingly]を別の副詞:[unrivalledly]にすると「他社がまね出来ない位」との意図を、更には、[innovatively]に替えると、「従来にない位」の意図を発言者は明示できます。

次は実際のmessageから:

例3) 海外企業に貴社が自社製品を売込み、後日、次の回答が有り。さてどんな意味合いでしょうか?

[We are sorry that we cannot sell your offered product **economically**, although we acknowledge your product is very innovative.] 先方の意図をサッと正しく掴むには、英語の「副詞」を的確に読み取る必要があります。⇒「残念ですが、当社では貴社ご提示の商材をお客様にお手頃な価格では販売出来かねます。確かに貴社商材はとても画期的な商材ですけれども」の意。上記の英文の [economically] が副詞で[cannot sell]の様子を詳しく説明する役割。副詞の [economically] は、【お客様にお手頃なお値段で】の意で是が先方の本音。即ち【**貴社の提示価格が高すぎて、販売もままならない**】の見解。故にこの場合では、以降、値段の交渉に入る事も可能。「副詞」を正しく理解できると相手の本音や心が入る手に取るように分かります。宿題です。海外企業らに対し商品を紹介する場合:【この「防水シート」は弊社の長年の主力製品です】と英語で云う場合、如何に云うでしょうか?副詞の使用を貴社で試して下さい。

何か特定内容の書き方に質問があれば、遠慮なくお知らせ下さいませ。Thanks for reading.

「副詞」を含めて英語全般の質問は当社email fuku@eos.ocn.ne.jpへどうぞ!

福岡貿易会からのお知らせ

今後開催予定のセミナー

※予定につき変更の場合があります。会員以外の方の受講も可能です。

○ 年末交流会講演会

【日 時】 12月3日(月) 16:30~18:00
【会 場】 ソラリア西鉄ホテル8階彩雲・雪(中央区天神2-2-43)
【講 師】 株式会社イメージプラン代表取締役社長 田口 佳史 氏
【内 容】 「大転換期を乗り越える新たな視点と経営」
ー東洋思想から次代の経営リーダーの要諦を学ぶー
【受講料】 無料

○ 海外進出企業をとり巻く5つのリスク

【日 時】 12月6日(木) 14:00~16:00
【会 場】 福岡商工会議所 2階 第2研修室
【講 師】 三井住友海上火災保険(株) 営業推進部 課長 長嶺 尚子 氏
【内 容】 輸出製品に関わる賠償責任、自然災害や正常変化に伴う緊急費用、出張者・駐在員の派遣中のケガ
輸出・三国間取引における売掛債権の未回収損害、国際間を輸送する貨物の損害
【受講料】 無料

○ 国際ビジネス税務 入門セミナー

【日 時】 12月11日(火) 18:30~20:00
【会 場】 福岡貿易会事務所
【講 師】 法師山康成税理士事務所 代表 法師山 康成 氏
【内 容】 国際税務の領域としくみ、個人が海外勤務をする場合の課税関係、海外に製品を輸出する場合の課税関係、海外からの製品を輸入する場合の課税関係
【受講料】 無料 ※終了後、近隣飲食店にて講師を含めた交流会を予定

○ 英文ビジネスEメール講座 応用編

【日 時】 1月17日(木) 9:30~16:30
【会 場】 福岡商工会議所 地下1階 B1-a会議室
【講 師】 みね事務所代表 / 中矢一虎法務事務所
(司法書士 行政書士) シニアマネージャー 峯 愛 氏
【内 容】 英文ビジネスEメール、実務において役立つ表現、輸出入シーン別Eメール
【受講料】 福岡貿易会 会員: ¥4,000 / 非会員: ¥8,000

○ 外航貨物海上保険セミナー 応用編

【日 時】 2月6日(水) 14:00~16:00
【会 場】 福岡商工会議所ビル 地下1階 B1-a会議室
【講 師】 三井住友海上火災保険株式会社
法人営業第三課 五木田 浩志 氏
【内 容】 外航貨物海上保険 各事例別検証
【受講料】 無料

○ 貿易実務に役立つ通関知識基礎

生産者・輸出者等によるTPPの自己証明・原産地証明文書作成とは
【日 時】 2月20日(水) 9:30~16:30
【会 場】 福岡商工会議所ビル 2階 第2研修室
【講 師】 中矢一虎法務事務所
(司法書士 行政書士) 代表取締役 中矢 一虎 氏
【内 容】 関税定率法(日本)別表、EPA/TPPと海外販売戦略、外国の自由貿易協定、新しい日本の通関システムとATAカルネ、貿易にかかる基本的な税の仕組み
【受講料】 福岡貿易会 会員: ¥4,000 / 非会員: ¥8,000

○ 英文契約書入門講座

【日 時】 2月21日(木) 9:30~16:30
【会 場】 福岡商工会議所ビル 2階 第2研修室
【講 師】 中矢一虎法務事務所
(司法書士 行政書士) 代表取締役 中矢 一虎 氏
【内 容】 越境EC(国際ネット販売) ビジネスを利用した英文契約(注文と注文請) 安定した貿易を行う為の契約特定条件、日本語で学ぶ英文契約書の一般条件、絶対に見逃さない簡単な英文契約単語と考え方
【受講料】 各講座 福岡貿易会 会員: ¥4,000 / 非会員: ¥8,000

○ 税関セミナー

【日 時】 3月開催予定
【会 場】 福岡商工会議所ビル 会議室
【講 師】 門司税関博多税関支署 支署長 他
【受講料】 無料

- 発行/ 公益社団法人福岡貿易会
☎812-0011 福岡市博多区博多駅前二丁目9番28号7階
☎ 092 (452) 0707 FAX 092 (452) 0700
- 発行日/平成30年11月30日 ●印 刷/株式会社西日本高速印刷

